木の循環、未来への一歩



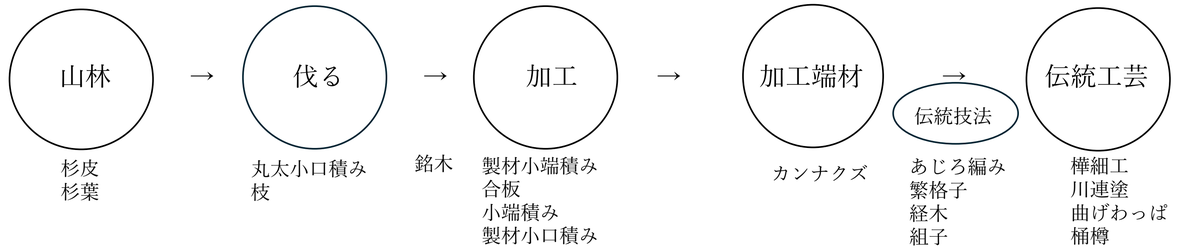
設計趣旨

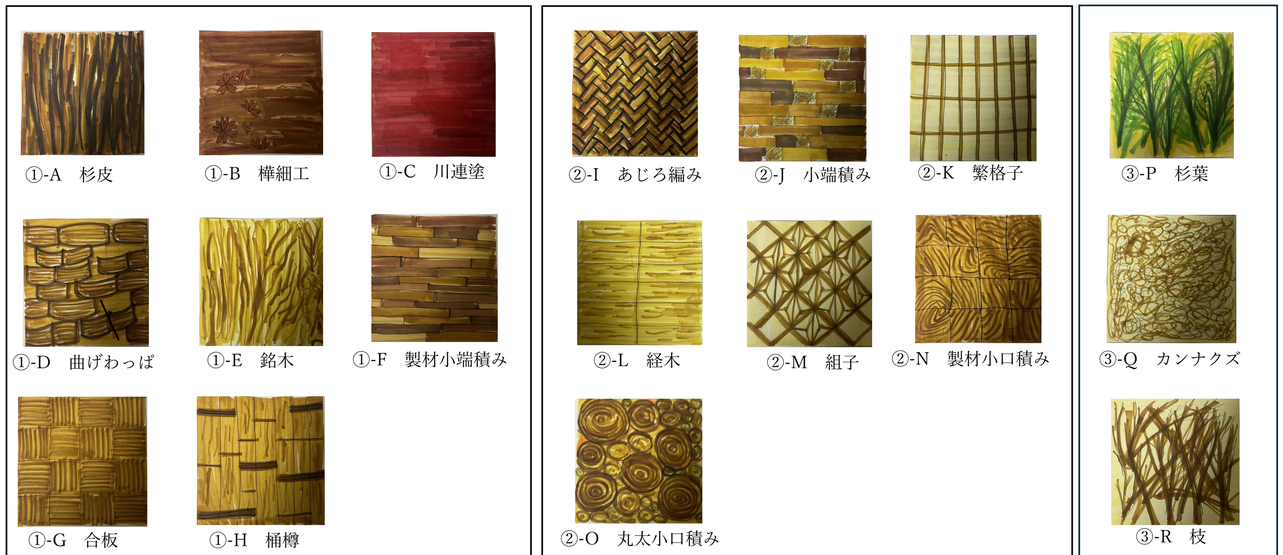
木を育て、伐り、加工し、使う。そして加工の過程で生まれた端材も活用し、伝統技法や伝統工芸品へとつなげていく。本提案では、こうした木材の循環をデザインとして1枚のバックパネルで表現した。

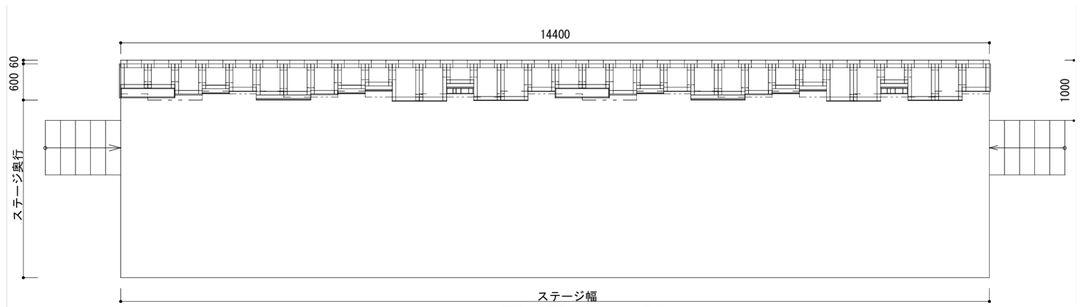
秋田杉をはじめとする県産材や樺細工、曲げわっぱなどの伝統工芸、木材加工の技術などをデザインに取り入れ、素材ごとの質感や特徴を生かした構成とした。さらに奥行きに変化をつけ、内照式の照明を組み合わせることで、それぞれの表情を引き立て、木材の持つ多様な可能性を感じられるデザインを目指した。

また、小さな箱状のユニットを組み合わせることで、一つ一つの素材が集まり、一枚の大きなパネルを構成する仕組みとした。ユニットごとに分解できる構造とすることで、式典を終えた後もディスプレイなどの別の用途に再利用できるように計画した。

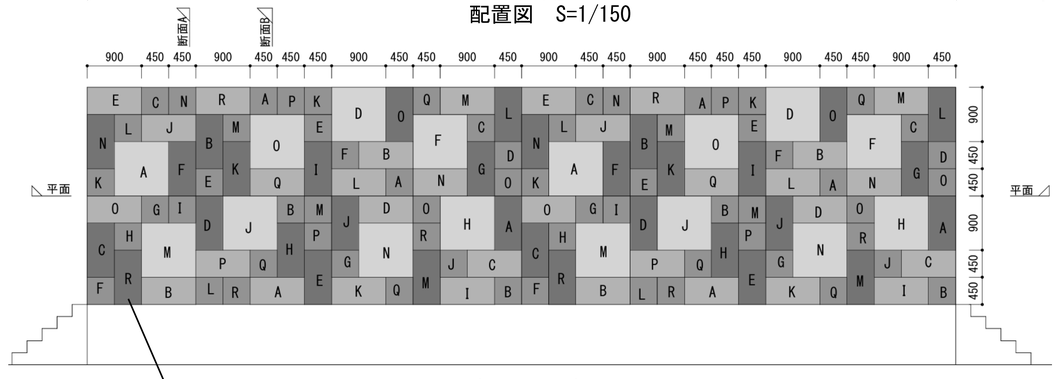
木材を使うことだけでなく、加工の過程で生まれる素材や、使用後のパネルまで無駄なく活用することも、森資源を大切にするための一歩だと考える。こうした小さな工夫を積み重ね、木材の価値を次の用途へ、そして次の世代へとつないでいく。本提案が、木と人との関わりや資源の循環について考えるきっかけとなり、緑を育てる小さな一歩から、未来へつながる大きな希望を生み出すことを目指す。





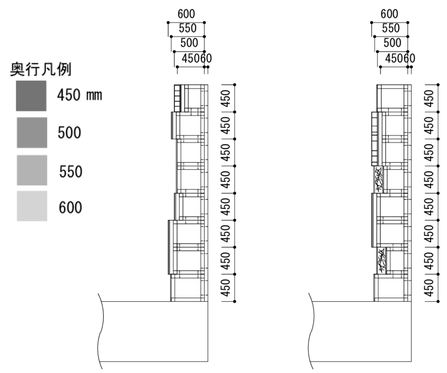


配置図　S=1/150



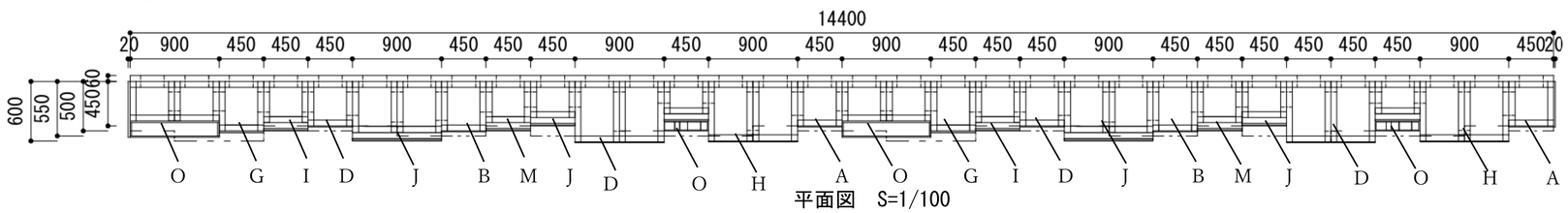
図中の各記号に対応する素材は右表に示す。

姿図　S=1/150



断面図A　S=1/150

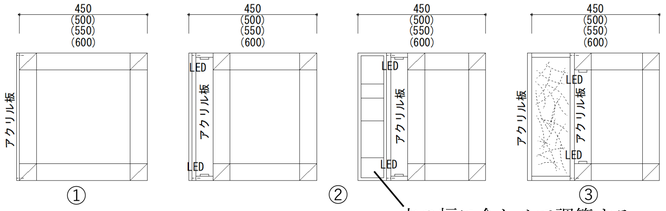
断面図B　S=1/150



平面図　S=1/100

①素材+表面貼付	②素材+アクリル板+LED照明	③アクリル板+素材+アクリル板+LED照明
A.杉皮 B.樺細工 C.川連塗 D.曲げわっぱ E.銘木 F.製材小端積み G.合板 H.桶樽	I.あじろ編み J.小端積み K.繁格子 L.経木 M.組子 N.製材小口積み O.丸太小口積み	P.杉葉 Q.カンナクズ R.枝

上表では、素材の構成方法に応じて3つに分類し、それぞれ詳細を下図に示す。



詳細図　木の幅に合わせて調節する。
製材小口積み、丸太小口積みのみ使用。